

数専会だより

2001年 11月
東京女子大学
数専会
窓専
同数

総会報告

平成十三年六月二十三日(土)
於72年館二階
議題

- 一般報告
- 決算及び予算
- 会計監査
- 夏季研修会について
- その他

*予算案の今年度の新入会費について 新入会員の数字を現実味のあるものにして欲しい旨の提案があり、四十五名を二十名に変更し、六万円とする事に決定しました。

*クラス幹事会の出席者が少なくクラスから一人は出てもらおうという事になりました。また、クラス幹事会、総会と二度同じことをするのは無駄です。4章19条など会則の見直しが必要である旨の意見が出され、今後の課題であります。

*会計監査改選
会計監査の清水不二氏(S23)から辞めたいとの申し出があり、クラス幹事会で廣田貞子氏(S24)が推薦され、総会で承認されました。

清水さん長い間有難うございました。

*園遊会バザー
今年も園遊会にバザーのお店を出しました。トレーナー、アクリルたわし、エコバッグ、エプロン、役員提供の品々等、たくさん売れました。ご協力有難うございました。

*数専会ホームページの担当が常任幹事の木谷玲子氏(S37)に決まりました。ホームページに載せますので、現在、グループで勉強中の内容やテーマ、楽しい集い、地方の情報などお寄せください。住所などの変更もホームページ(または会長宛メール)で出来ませう。内容も新しくなりましたので、どうぞご覧下さい。なお、ホームページのアドレスは次の通りです。

http://www.geocities.com/jp/18hropoli/s12355

*通信費の納入にご協力ください！

今年度は通信費(平成十三、十四年度分二千円)を集める年です。この数専会だよりをお送りする時に、振込用紙を明記の上お振り込み下さい。既にお払いになった方には用紙が入っていません。数専会が今後も活発に活動するための大切な資金です。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

夏季研修会

平成十三年七月二十七日(金)

於 ホテル箱根パウエル

*今年の夏季研修会は昨年と同じ場所で行われ、参加者は日帰りも

プログラム

七月二十七日午後
「数理学科と私」

東京女子大学名誉教授
根岸 愛子 氏

「東京女子大学のいまとこれから」

東京女子大学学長
船本 弘毅 氏

「リサイクルファッションショー」

一、二三年卒 山本 静枝 氏
同級生の皆様

七月二十八日午前
「折紙講習会」

「折紙について」
一九九年卒 倉橋 澄子 氏

「折紙実習」

「多面体の折り方と六角形の箱作り」

一二年卒 川喜田弘子 氏
二三年卒 山本 静枝 氏

含めて四十六名でした。

第一日目午後二時から

根岸愛子名誉教授による講演

「数理学科と私」が行われました。

数理学科の歩み

東京女子大学が一九一八年に産声をあげて間もなく、新渡戸学長が国際連盟事務局次長を兼務されることになって、学監の安井てつ先生が実質的に学長の仕事を兼ねておられた。安井先生はリベラルアーツ・アンド・サイエンスを教育方針とされ、英国留学の経験から女子教育に理数学科の習得が必要であることを痛感して、創立当時から入試科目に数学が入っていた。一九二四年学長に就任された安井先生は講師であった阿部八代太郎先生に相談され、一九二七年難産の末、数学専攻部が設立された。数専の卒業生に教員免許を取得させるために、「中等教員無試験検定」認可の申請をしたが、男子と同等の実力をつけるのは大変で、すぐには認可が下りなかった。当時文部省の文検なるものがあつたが非常に難しく女子の合格者は稀であった。本学から優秀な成績で年に一、三名合格者が出たが、クラス全員に教員資格を取らせるためには無試験検定が必要で、これを認めてもらうために、教員も学生も悲愴な決意の下に準備を重ね、一九三六年ようやく検定試験に漕ぎつけた。まず四年生が受験三年生は翌年四年生になってから口頭試験形式で教授法の試験を受けた結果、念願の「中学教員無試

験検定」は認可されたのである。

第二次世界大戦前後の厳しい情勢から学校全体が改組され、三年制になった。数学専攻部も三年制数学科になり、新制大学設立の折には理数学科が数学科しかない理由から短期大学の二年制数科となるしかなかった。数学専攻部時代に自然発生的に生まれていた数専会の初代会長豊泉しげ氏は新制大学発足時に四年制にならなかつたことを残念に思い高木貞二学長の時代に数専会総会で四年制にする運動を開始することを決め、中屋澄子副会長とともに学長宅をたびたび訪問し、何らかの形で四年制の学科を作って下さるように訴えた。女子の理数教育に理解深い学長はこのことを受け止めて下さった。一方数専会では口先だけでは駄目であると四年制昇格に備えて数専会として募金し、当時としては大金の二百万円余を集め数学科の図書を寄付した。

高木学長は四年制として理数系の学部または学科を作るためには実績を積み重ねなければならぬと考え、先ず短大の枠内で三年制に移行し、正田建次郎先生と玉虫文一先生を招き数学・自然科学系を強化した。こうして最初は複数学科を持つ理数学部が提案されたが財政的に無理であった。その後数学研究室の先生方の努力と高木学長の英断により、文学部を文理学部と改め、理数系学科は数理学科一つの四年制学部が誕生した。

数専会は募金に加え、学習教室やダンスパーティー、バザー等を

開いて図書を寄贈するなど数理学科を支えてきた。数理学科に於いては教員の充実を図り、大学院の設置、委託聴講生制度を設けるなどして立派な卒業生を送り出し、社会でも程度が高い学科として認められて来た。その中であつて理系数学科を複数にする努力は続けられ、何回も種々の提案が教授会に提出され将来計画検討委員会で検討されたが、いずれも実現できなかった。何故ならば教授会は総論賛成、各論反対で、大学の発展のためには良いが、限りある財政予算の配分の点で文系が圧迫されることを恐れるからである。

大学では、現代文化学部が一九九七年に善福寺キャンパスに移り、学部統合、学科の整理など改革を進めて来たが、結論を得るに至っていない。一九九八年船本弘毅先生が学長に就任されて以来、先生は精力的に東京女子大学のためにお働き下さり、先ず数理学科と社会学科の中にそれぞれ2つの専攻を作ること、数理学科には環境学に関する専攻を設けたいとの方針がよつやく教授会で承認されたと聞いている。船本先生から詳しいお話があるのでここまでにしま

す。
創立八 周年記念に出版された「東京女子大学の八 年」をお読み下さい。
(廣田貞子さん(S24)が書いて下さったことをまとめました)

根岸先生のコメント

船本学長の到着が遅れることに

なつたので、私が先に話すことになりました。そのために、話は二つの部分に分けて、前半は数理学科の歩みを簡単に復習して船本先生の講演に繋げ、後半は私と大学との関わり、大学の中において感じたこと、考えたこと、活動したことを述べました。そして、それが現在に至る私の生き方につながっていることを話しました。このことについて、廣田さんは殆ど触れて下さらなかったのですが、これは無理もないことです。後半の部分を短く補足させていただきます。私は高等学部・数学科の学生であつたときから、女子大の教員となり定年退職まで、大阪大学在学と女子学院奉職の期間を除いて五年近く東京女子大学に関わらせていただきました。数学の研究・教育のほか、学生部・宗教部・国際交流などの仕事もしました。また将来計画検討委員会・女性学研究所など大学全体に関わる仕事にリーダーとして委員として働きました。そこで多くの大切なことを教えられました。大きく分けると次の三つになります。

- 一、差別性差別、人種差別、社会的弱者に対する差別
- 二、環境社会、自然、地球
- 三、心のいやし(不適切ないじめ、閉じこもり)

これらは互いに関係しています。この三つについて、教育の場でも大切に扱わなければならないと思います。環境に関する学科または専攻ができることは、喜ばしいことです。今、大学の生き残りとい

うことがいわれています。東京女子大学が抱えている特徴でもあり弱点にもなりうる、キリスト教大学であることと女子大学であることは前述の観点から見ると、目玉として強調すべきことです。私は微力ですが女性学研究所の創設に関わり、キリスト教センターを組織立てる準備をして、船本先生に引き継ぐことができました。

現在私はCMCC(キリスト教メンタル・ケア・センター)でボランティアとして働き、心の病の方や家族の方の電話相談の仕事をしています。治療ではなくケアに徹して、じっくりお話を聴き医療の谷間を埋める仕事です。このことについても具体的なことをまじえて話しました。詳細は書きません。ご理解とご支援をお願いいたします。

根岸 愛子(S24)

第一日目午後四時から 船本弘毅学長による講演 「東京女子大学のいまこれから」 が催されました。

今年、三年前の創立八 周年の春、東京女子大学の学長になられた船本弘毅先生をお迎えして、いろいろお話を伺いました。先ず、御略歴、新渡戸先生のこと、安井先生のことなどお述べになり、東京女子大の特徴は、

- 1 キリスト教大学
- 2 私学
- 3 女子大学

4 リベラルアーツ教育であり、犠牲と奉仕を目標としている我々の学校を大切にしよう。さて、数専会会員にとつての関心事である「理系をふくらます」ということについて。二 三年

度から実施したいと準備していることは、文理学部の数理学科を数理環境学科として、数学専攻の他に、新しく環境科学専攻を開くことになる。この事については、活発な質疑応答がなされました。

今日は、礼拝、教授会などでご多忙にも拘らず、数専会研修会のためにほる箱根までいらしてくださり、無慮慮な質問にも明るくお答え頂き、数専会の全盛時代の自慢話も聞いて頂き、本当に有難うございました。お話の後の夕食会には、船本先生に「食即のお祈りをして頂きその後、「これから数専会ガンバリマショー」という会長さんの音頭で乾杯。

寺田 陽子(S22)

船本弘毅学長について

船本弘毅先生は生徒、学生、教授として五十一年間、関西学院に在籍され、一九九八年東京女子大学に着任早々創立八 周年を迎えられた由、初代学長新渡戸稲造は、高校時代、「予の尊敬する人物」(矢内原忠雄著、岩波新書)の四人に、エレミヤ、日蓮、リンカーンと共にあげられていた事が印象的で、多才な国際人、「知られざる巨人」であるとの興味深いお話を伺い、女子大の原点を再認識した。

先生は週三回教壇に立たれ学生との接点を大切にされている。

御多忙ゆえ初めての箱根も案内できずであつたが、有意義なひとときだつた。

(テープご希望の方は数専会まで) 吉益 美恵子(S42)

第一日目は山本静枝氏をはじめ 二三年卒の方々による 「リサイクルファッションショ

ー」が開かれました。

夕食後、二三年卒の方々のファッションショーが開かれた。楽しみにしていた企画である。山本静枝様のトークを中心にリフォーム作品が紹介されてゆく。

三十年前のバーバリーのレインコートはポストンバッグに生まれかわつた。ポケット、ベルト、そして **Barbary's** のマークまでもそのまま上手に活用されている。

傘の布地を利用した買い物バッグは、三角形の布を組合わせていく過程が楽しそうだ。軽くて丈夫で、今はやりのエコバッグとして携帯に便利である。ロングドレスはドレープをきかせたブラウスに。ミニスカートは二枚つかつてツイートのベストに変身した。裏地つきのベストの場合は、表に返す時のために縫い目を一箇所あけておかなければならないが、それは位相幾何を利用して縫つ。との数専会ならではの説明あり。劣等生の私など「ハテ、位相幾何とは？」とはるか昔の講義や和田先生のお顔

をなつかしく思い出すのみ。

和服を利用する場合は縫い目を
ほどいて洗い張りをしてと考
えがちだが、直接裁ちなので、臆せず
型紙を置いて、最小限の必要な縫
い目のみをほどこすこと。縫い上が
ったら、クリーニングに出すこと。
「これがコツよ。」との説明あり。
臙脂色の和装コートは張りのあ
る布地を生かして、シルエットの
美しいコートドレスに。黒の絵羽
織は、ロングの巻きスカートに。
素材のよさと柄の配置で、パーテ
ィーにも着られる作品になった。

何より、ウエストの変動にどの様
にも対応できるのは嬉しい。黒の
紋つき羽織はブラウスになり、紋
は胸元にもつてきて、そこには市
販の花のレースモチーフをつけ、
カモフラージュと同時に華やかさ
を演出。こうした工夫が随所にみ
られる。

山本様のお仲間が淡いグレーの
上品なワンピースを着て登場。百
一才になられる母上の絞りの羽織
を、ビルブラスの最新デザイン型
紙でリフォームした作品。よくお
似合いである。その羽裏までもが
ブラウスに変身した。

仕舞われたままの反物は、たっ
ぷりとしたパンツスーツに仕立て
られた。反物は、33センチ巾で、
13メートルもあり型紙がゆつた
り置ける十分な大きさであり、リ
フォームに向いている。

資源の再利用が推奨されている
現在、立派な資源である和服が箆
筒に眠っていませんか。山本様は
経験も豊富で、アメリカから取り

寄せられた型紙も数多く持って
いらつやいます。相談にのって
いただき、すばらしい作品に生ま
れかわらせてみてはいかがでしょ
うか。

特別におつきあい下さった船本
先生も、「なかなか工夫されてい
てすばらしい。」と感心して観て
いらつやいました。

何事にも積極的で、エネルギー
シユな活動をしていらつやする先
輩方に脱帽！

なかなか楽しい有意義なひと
とでました。

高山千津子(S41)

第二日目午前は

川喜田弘子氏(S11)
倉橋 澄子氏(S19)
山本 静枝氏(S23)

による

「折紙講習会」が催されました。

折紙について

一、料紙として
現在使われている半紙、これを
横長に二つ折にして、輪を下に使
ったものを折紙と呼び、メモ、帳
面(この場合は綴じたと思われま
す)、手紙などに、平安時代末から
使われていました。江戸期以降は、
刀剣、骨董、美術品の鑑定書、さ
らに武道の免許状などいわゆる
「折紙付」という言葉として残っ
てきているものがあります。

二、折紙として
礼法として

正月餅、婚礼の提子(ひさげ飾

など、和紙を儀式の飾として折り
上げます。また、物品を和紙で折
目正しく折り包んで贈ることがあ
ります。

包むことにつながるものとして
薬を包むなどは、身近にある実用
の折紙といえるでしょう。(参考
「包む」 額田巖 法政大学出版
局)

遊びとして

紙を折るだけで形を造る、今で
いえば、造形は、江戸時代から明
治にかけて、折紙細工を通して、
今の「おりがみ」になっているよ
うです。

この遊びは手から手へ伝承され
様々なものが折られるようになり
ました。そしてこの遊びは日本に
独特のものでした。今でも新しい
ものを工夫して折ることは、沢
山の「折り方本」が出版され、広ま
っていることでも分かります。

ところが、この四角い紙、明治
中期には正方形に裁断された何色
かの色紙を束ねたものが売り出さ
れ、「おりがみ」と呼ばれ、アメリ
カやヨーロッパでも ORIGAMI
と記しています。を折って色々の
形をつくるのが珍しく、奇術師
などの芸として幕末から海外に流
出したとのこと。 (例、だま
し船など)

しかも、遊び、見世物芸として
渡ったものが、幼稚園教育の創始
者フレイベルによって教材の一つ
として取上げられました。

教材として

教材の一つとして採択した理由
に、初等幾何の基本教材としての

評価がありました。これが明治新
政府の幼児教育に逆輸入され、初
等教育の中におさまりました。角
と角、辺と辺をきちつとあわせて
折るのが、相当難しいことは、三
四歳児をみれば明らかです。この
ことは、幾何学的な厳密さに重要
な価値をもつものでした。

しかし、折角逆輸入した折紙の
初等幾何教材としての評価が忘れ
られ、一部の児童心理学者らによ
って、きまつた通り折るのでは、自
由な独創性を損なうもの、「という
批判をつけ、正規の教材からはず
されました。これにより、折紙の
もつ造形的変化の多様性を見落す
と同時に、幾何学的厳密性の価値
も見落すことになったのです。

近年、伏見康次・満枝夫妻の他、
折紙にある幾何教材としての一面
に、高い価値を見出す実践がされ
ています。(注、折り紙の幾何学)

アメリカ、ニューヨークに「お
りがみセンター」があるのをはじ
め、ヨーロッパの各国でも「お
りがみ研究会」が出来、活動してい
るとのことですが、日本での研究
会に取材しなかったことは、一番
いけないことだったのでないかと
反省しております。

(注・ストローの袋を結んで五角
形の連続、・宿の浴衣帯、運動会
の鉢巻を6角形、3角形に巻く。)
倉橋 澄子(S19)

折紙実習

川喜田弘子氏による

「16羽の連鶴」作成でした。

正方形から作る長方形、辺の比

が、(対1)からとる最大正多角形
などを楽しめ、4羽の連鶴に挑戦
(16羽はこの連続)。山、谷線が
細かく入った紙で、端を切り離さ
ぬ様緊張しつつ、何とか要領が分
かり、時間切れを惜しみながらも
最後に中谷先生直伝の封筒利用の
正四面体作りです。精巧かつ多く
の準備をされた川喜田様はじめ助
手の皆様方にただ「感謝」です。

吉益 美恵子(S42)

山本静枝氏による

「多面体の折り方と六角形の箱
作り」は時間切れて中止となりま
した。

山本様やそのお仲間が一枚一枚
時間をかけ用意して下さいました
材料は残念ながらそのまま皆様に
差し上げるだけとなってしまい、
ご期待に添えなくて、申し訳ござ
いませんでした。

厚生部との協力のお願い

今回、厚生部では、以前も行
いましたアンケートを実施致します。
これは、厚生部の活動である「求
人と求職のお手伝い」を有効に行
うための資料と致しますので皆様
のご協力をお願い致します。同封
のアンケートの葉書に経歴、技術
技能、資格、そして現在の状況、
希望を記入してお送り下さい。現
在、仕事をしている方、又は、仕
事をしていない方もご協力下さい。

なお、関東一円で三十年卒業以降の方を対象と致します。

会計から

平成十三年六月二十三日の総会で承認されました平成十二年年度の決算は左記の通りです。

中田 達子(S42)
大島 治美(S52)

会計監査報告

平成十二年度決算報告を精査の結果、間違いありません。

平成十二年六月三日

会計監査

清水 不二(S23)
小林 多恵子(S27)

厚生部から

厚生部では皆様の求人、求職のお手伝いをしております。平成十二年度の活動状況を報告いたします。

*教職関係

専任教員 21件(成立なし)
時間講師 14件(成立1件)
家庭教師 1件(成立なし)*
コンピュータ、その他

求人 2件(成立なし)
大学研究室 2件(成立なし)
相変わらずの不況のため求人が減っております。求人、求職の情報をお寄せ下さい。

なお、専任教員公募21件の情報は杉山先生より頂きました。教職をご希望の方は、是非、お知らせ下さい。

原田 秀子(S29)
及川 恭子(S34)

庶務部から

庶務(住所管理担当)からのお願い

一 通信費納入や住所変更等数専会への連絡の際(メールも含む)は、同姓同名の方もいらつしやるので、必ず卒業年を記入してください。

二 改姓時には、振り仮名を記入してください。

三 われらの届けは、FAX(会長・数専会ホームページ)のメールでも受け付けております。

兼俊 充子(S30)

研究部から

現在、高村先生、杉山先生、永山先生のゼミと、五つのパソコン勉強会、二つの高校数学勉強会、計十の勉強会があります。横浜マイコングループは今年度から自主グループになりました。

高橋道子先生(S34)ゼミ(微積分)の復習も含めフリー解析開講を企画し、現在希望者を募集中です。皆様のご参加をお待ちしております。

菊地 弘子(S22)
高山千津子(S41)

今年の夏期研修会参加者は、日帰りを含め46名でした。例年のようにアンケートをとりました。結果は次の通りです。

アンケート回答数 34
(複数回答を許す)
一 研修会の時期について 1
・夏休み中(七月末頃) 9
・春秋 8
・何時でも 7
・無回答 3

二 開催地について 1
・ホテル箱根ハウエル 2
・時々変える 8
・たまに地方で 6
・階段の少ない所 4
・交通の便利な所 4
・無回答 3

三 研修会会費について 4
・適当(一泊二日・16000円) 3
・安い方が良い 4
・無回答 2

四 来年の企画について 1
・勉強になる話を希望 2
・幹事会の企画に一任 4
・若い人も参加できる企画 3
・体を動かす事もあったら良い 3
・無回答 1

五 講師について 5
・学内の先生を含め数人の先生を掲げて頂いてあります

六 今回の研修会について 6
・学長先生、根岸先生のお話で女子大の現状も理解し易かった
・お二人の先生と親しくお話出来て楽しかった
・折紙、フッシュンショー等楽しかった

・数学的な話、生命科学の話等を希望内容により若い人も参加するのは、時間配分能率的に、二日目早く始めれば折紙をもっと出来たのでは、後の席は聞こえないので机の並べ方を工夫しては

どうも有難うございました。来年の企画の参考にさせていただきます。会長

編集後記

夏季研修会では、時代の変化と共に新しい道を踏み出そうとしている数理学科のお話を伺いました。各方面でご活躍の先輩方の前向きなお姿に接し思いを新たに致しました。

発行人

東京女子大学同窓会数専会

会長 高橋 美保子

FAX
XXXXXXXXXX
XXXXXXXXXX
XXXXXXXXXX

(注)会計報告をご覧になりたい方は数専会までご連絡ください。

数専会カナダ旅行

今年の旅行は出発までに色々なことが起こり、又ある意味ではとても上手くいった旅行でした。メンバーは22名、添乗員は2名、日程はゆつくりと取り、一つの都市に何日か泊つてのんびりする、という予定でした。

もともと数専会の旅行は一年おきで、昨年トルコに行ったので、今年が行かない筈でした。しかし川喜田さんが、再来年では八十八になつてしまつたら毎年に行きたいと言われ、確かに我々も年をとるし、というわけでも今年も行くことにしました。

ところが、あつという間に色々なことが起こりました。先ず、ニューヨークのイスラム過激派のテロ。これは我々の旅行にはあまり関係は無いと思つていました。

ところがまたも、9月15日の朝とんでもない電話が入りました。川喜田さんが亡くなられたと言つてです。その晩のお通夜に伺つて、眠つていような安らかな顔を拝見してやつと本当だと納得がいきました。前日、お元気で外出され、何事も無くお休みになられたのに、翌朝お目覚めにならなかつたとか。

それから、ばたばたとメンバーにご不幸やら、ご家族、ご自分の健康の障害など起こり、最終的には14名になり、添乗員は1名、しかし料金は据え置きとなりました。但しテ

ロが怖いから止めると言う人は1名もいませんでした。念のため。

メンバーは永松由紀子(S18)、矢部圭子(S19)、天城孝子(小学外)、矢部さんのお嬢様、

菊地弘子、久野知子(S22)、坂部禮、清水不二(S23)、大野美恵子、関由紀子、田辺美代子、矢矧かつ子、塩入芳枝(S26)、小林多恵子(S27)、原田秀子(S29)です。

9月27日、夜6時20分、トロント着、8時20分、シエラトンホテル着。おにぎり3つの軽い夜食を買つて部屋に行く。イギリスではホテルの部屋にお茶の用意があつたがカナダでは、どのホテルでもアイロン、アイロン台とコーヒーマーカルの用意があつた。

9月28日、朝食後バスでナイアガラへ出発。いいお天気。ナイアガラに着き、カナダ側から見ると、左手にアメリカ滝、その端に細い滝があり、ブライダルベールと言つ。他にも幾つかあつた。右手に馬蹄形のカナダ滝が見える。アメリカ滝の更に左手の国境の橋は検問が厳しいのか、車が疎らだつた。

青いビニール袋のようなコートを着て、観光船霧の乙女号に乗る。何年前か前に来たときには、水は洗剤の泡だらけだつたが、水の浄化が進んだためなのか泡が少なくなつて、やがて船はゆつくりとカナダ滝の方へ進み始めた。飛沫がひどく、泡のことを思い出してフードを深くかぶり、滝に背を向けた。

霧の乙女号を降り、滝の上流へ行

き、皆で川喜田さんの遺影を入れての記念撮影。旅行社で用意してくれた花束を本当はいけないのだからナイアガラの流れに投げ入れて川喜田さんのご冥福を祈りました。

9月29日、5時30分、モントング・コール、6時、食事、朝早いのでボンヤリしている。飛行機でケベックへ。

ケベックシティのあるケベック州はフランス語圏で、カナダはもともとイギリスとフランスの植民地の集まりで、ド・ゴールなどがやって来て独立を煽つたそう。カナダのフランス語は発音がフラットで聞きやすい。私たちも慣れないながら、メルシイとかシルブプレと言つ始末。ケベックはセント・ローレンス河に面した古い街で、お城のようなホテル、シャトー・フロントナックのある高台とその下の港のある街がある。街は城壁で囲まれ、大体その中が旧市街です。私たちのホテルは城壁の外で、ホテルの前の道を下つて行くと城壁に出、旧市街の中心地に着く。ホテルの裏側は戦場公園で、ここは英仏戦争の最後の決戦の場だつた。

土曜日なので教会で結婚式があつた。それでは見学できない。ガイドによると、教会で式を挙げるのは珍しく、市役所で式をするか或いは同棲だという。ケベックは殆どがカソリックなので離婚が出来ないためとか。裏の案内所に行くに聖体のパンをくれる。これはお守りになると言つ。ノートルダム寺院を見る。

お買い物をしていたら、イヌイット

トの美術館があつた。石や、動物の牙、骨の彫刻などいいものがあり、小さな美術館だつたが楽しんだ。イヌイットの美術は今注目されているらしく、他の都市にも色々あつた。お天気はよい。現地ではずつと雨だつたと言つが、私たちはよい天気恵まれた。

9月30日はケベックの郊外、モンモランシーの滝やセント・ローレンス河の島、オルレアン島に行った。冬の前の最後の小春日和の日曜のたぬのか、カナダでは珍しい車の大渋滞にあつた。モンモランシーの滝はナイアガラの滝よりも33メートル程高い。次いでセント・アンナの寺院に行く。ジブシー達が順礼に来る所だそう。霊験あらたかなマリッアを抱いた聖アンナの像があり、アンナの腕の骨が飾つてあつた。地下にもまた聖堂があつた。

セント・オルレアン島に渡る橋は大渋滞でのるる運転だ。島は農家が多く、道路脇にハローウィン用の南瓜を山のように積み上げて売つている。その一軒にバスを止める。南瓜の山の傍に小さな小屋があり、野菜、リンゴ、ゆでた玉蜀黍など売つている。ガイドさんが小さなリンゴを振舞つてくれた。固い紅玉のよう

な昔の味だつた。ズボンでこすつてかぶりつく。リンゴの丸齧りなど久しぶりだ。玉蜀黍はバターの上に転がして、塩を振つて食べる。南瓜は大きい水っぽく、不味いそう。南瓜だけは日本のものが恋しいとガイドさんが言つていた。

渋滞の中、島から戻り、シエ・マ

リーに行く。途中に一人用の礼拝所があつた。大きな大小屋位で中はそれほど設えてあつた。他にもギネス・ブックに載つたという六人用の礼拝所もあつた。きれいに飾つておもちやの家みだつた。

シエ・マリーの店では、屋外の小さな石のパン焼き釜でパンを焼き、バターとメープル・バターを塗つて食べさせてくれる。全粒粉の小型の食パンでとてもおいしかった。カナダのパンは最初食べたとき、何かへンだつた。あとで聞くとイーストを使わず、ジャガイモだと言つ。ジャガイモをどう使つのか分からないが、ヨーロッパやトルコのように固い美味しいパンはなかなか無かつた。

でも、シエ・マリーの店では満足で、メープル・シロップや、メープル・バターを買い込んだ。

10月1日、バスでモントリオールへ。途中、三天マリアの聖地と言ふ寺院の二つに行つた。ヨーロッパの我々の行く寺院は少なくとも、美術的に素晴らしいものがあつた。カナダの寺院は新しいだけで、だだっ広く、縁無き衆生の私には面白くなかつた。モントリオール着後、市内観光。

10月2日、カルガリーへ飛行機で移動、4時間かかつた。カナダは広いとつくづく感じた。カルガリーからバスでバンフへ。バンフはカナディアン・ロッキーの観光の拠点である。

10月3日、国立公園、コロンビ

ア大氷原へ向かう。ガイドによれば

3日前は猛吹雪で何も見えなかったとの事だが、我々が行った日は上天気。雪上車に乗り氷河へ、車は空いており、私たちだけで大きなバスを独占した。

10月4日、起きると雪が降っている。バンフでは初雪でしかも満月である。今日は、バンフの辺りのお散歩組と山歩き組に分かれて行動。お散歩組はバンフの街を流れるボウ

河の辺りを歩き、ここでマリリン・モンローの帰らざる河のロケをしたボウ滝を見た。昼食後、ホテルの前の温泉見学、更にその傍のケープルカーで山に登った。頂上の展望台から更に少し歩きホテルに戻った。山歩き組はガイドの車で行って、そこからけもの道を歩いたそうだ。

10月5日 バンフからカルガリーまでバスで、カルガリーからバンクーバーまで国内線、そしてバンクーバーから帰国の途についた。

今度の旅行中、私は何のトラブルも起こらない、それどころか上手くいくと感じていた。川喜田さんがずっと見守ってくれているような気がしていたからだ。

アメリカのアフガニスタンへの空爆が始まったのは、私たちが帰国して二日後だった。

矢矧 かつ子(S26)

カナダあれこれ

全体についてはすでに紹介されているので、旅行中体験したいくつかを紹介します。

・ ロッジボールパイン

カナディアンロッキーに多く見られる一見日本の杉のような樹木で名称のとおり松の一種。由来は先住民が何本かをまとめて先端をしばり、裾を円錐状に開き、動物の皮をはって住居としたことによる。寒冷地の故、成長可能なのは年に夏の二、三ヶ月だけ。従ってさして大きくない木でも樹齢は四百年を超える。

・ アイスワイン
糖度の高いデザート用ワイン。凍らせてしまった葡萄を何とか利用したいと思ったのが出発点。ワイナリーでは無料で試飲可の赤白に比し5カナダドル。アルコール濃度は一般が13%くらいなのに比し9%と低め

・ ハローウィン
10月31日の夜行なわれ、今日ではアメリカなどの子供の祭りとして知られる。郊外ではかぼちゃの山

が、空港の売店には袋詰め菓子が見られた。

・ 回転レストランの眺望
ケベックのホテルの最上階のそれは、日頃見慣れている風景とは異なり、眼下の街なみや長くのびる道に

続いて広大な大地と山なみが広がり夕陽が連山に沈むさまは圧巻。ケベックはフランス語圏であり街もその香を漂わせている。

・ カナディアンロッキー
10月の平均気温最高摂氏10度

最低摂氏マイナス2度。顔手唇凍らせて、からから、樹木が生えらるるの

のは高度2100メートルくらいまで、降り積もった雪が自身の重みで

水になった氷河は地球を侵食して独特の地形を造り、また温暖化によ

て後退中。

大野美恵子(S26)

川喜田さん

「真摯な折り返し」

昭和三十年頃、私は目白に住むことになりました。川喜田様はもつと前から目白にお住まいでした。同じ道を、右と左に数軒つづつと

昭和四十年、川村高校へのお誘いを受けました。義母病気のため一年

間でやめることになりましたが、その後、放課後の文化教室の講師など

させていただきました。

それで、目白通りをよく一緒に歩きました。その頃はまだお小さかつたお孫様のお話を伺って、まだ

だ先のことと羨ましく存じたものでした。その後、小学、中学、大学、

就職、ご結婚と、素晴らしいお孫様のお話をその時々伺わせて頂き

ました。ご立派に成長されてゆくお孫様たちがお楽しみのご様子でした。

川村の講師をやめられて後、数年母校で聴講なされたようでしたが、

昭和六十年、学習院の聴講生になりました。試験を受けられる時のご

主人様の励ましのお言葉には感心させられました。その後、ご主人様が

ご病気になられた後もご看病されながら続けられました。今日は学習

院の日でしょう。行っていらつしやいとの病床でのお言葉が励みにな

られたと思われま

「長男の奥様の家で教えていらつしやる生徒さんのご様子もときどき

話されました。

明日からあるいは何曜日から岡山に言つてきます、という嬉しそうなお言葉もよく伺いました。岡山には一番下のお嬢様がお住い

昨夏は、上の二人のお嬢様と数専会のトルコ旅行に参加なさいました。お一人の方は英語で活躍され、もう一人の方は地図がお好きでよく集め

られていると伺っておりましたが、ご旅行中にもそのご様子が伺われ

ました。

今夏、数専会夏の研修会の数日前にお見えになり、お話になることを

取捨選択なさつておられました。日本紙を用意され、色を塗られ、カッ

ターで切り込みを人数分全部に入れていらつしやいました。さぞ大変で

いらしたことが頭が下がりました。プリントは中田さんが用意してく

さると喜んでいらつしやいました。学校で教えられる時も、家で教えら

れる時も、何時でも何でも完璧に準備をなされたのだと思

ました。お一人になられてからは、ご長男のご家族に見守られながら、教会、

ピアノ、パソコン、学習院、毎朝のお散歩、と規則正しくお過ごしのご

様子でした。学習院の後期の授業には統計を取られ、お孫様と統計のお

話をなさるのを楽しみにしておられた

た

突然の訃報を伺い、ただただ耳を疑うばかりでした。でもこれでご主人様のところに行かれたのだと思

ました。が、その後、「私にはまだまだしたいことが一杯あったのよ」と言われた川喜田さんのお姿を見たよ

うな気がしました。

お葬式で、ご家族が賛美歌でお送りになられたその賛美歌をお聞きになり、一通りのコーラスではないと感心された方がありました。お優しいご親族の方に見送られ天国に行かれた弘子様は、今はご主人様とともに、主のみもとで安らかに憩われておられることと思

浅田 昭子(S23)

川喜田弘子さんには数専会のためいつも暖かく応援していただき、

研修会には二度も講師をお願いいたしました。この夏の研修会の講師を

お願いしました際にも快く承諾されて、連鶴の折り方やその他いろいろお教え下さいました。とてもお元

気でしたので悲しいお知らせを受け

呆然として言葉を失ってしまいました。私たちにお手本を示して下さい

ておられた方を、また一人失つて本

当に残念に思いますが、川喜田さんの思い出をいつまでも忘れず精進して

いきたいと思

高橋美保子(S31)

昭和十五年卒業の方達による

卒業後五十年記念の文集

二五年卒業の方達が、卒業後五十年の記念として文集を作られました。大変読み心えのある立派な文集です。数専会のパソコンの部屋に保管してありますのでどうぞご自由にご覧下さい。

数専会会長

編集後記

今回は今年の夏の研修会で講師をして下さった川喜田様のご冥福をお祈りして、川喜田様も一緒になさる筈であったカナダ旅行の報告と共に号外といたしました。